

○馴 ……なれる。馴らす。したがう。

170 ○懷懷…①危ぶみおそれるさま

『書経』「泰誓中」に「百姓懷懷、若崩厥角。孔伝、言民畏紂之虐、危惧不安」の用例が、また陸機の「文賦」に「心懷懷以懷霜、志眇眇而臨雲。(注)善曰、懷懷、危懼貌」の用例が見える。

『漢語大詞典』には「①危惧貌。戒慎貌」と説明する。

○龍泉…宝劍の名前。もと「龍淵」という。唐代、高祖の諱を避けて龍泉という。

『晋書』「華張傳」の「斗牛之間、常有紫氣、豫章雷煥曰、寶劍之氣、上徹於天、華問在何郡。煥曰、在豫章豐城、即補煥豐城令、煥到縣掘獄基。入地四丈餘、得一石函。光氣非常、中有雙劍、一曰龍泉、一曰太阿、是夕斗牛間氣不復見焉」の用例を、また『太平寰宇記』の「龍泉縣南五里、水可用淬劍、昔人就水淬之、劍化龍去、故劍名龍泉」の用例を載せる。

『漢語大詞典』には「宝劍名。即龍淵」と説明し、李白の「在水軍宴、贈幕府諸侍御詩」の「寧知草間人、腰下有龍泉。王琦注、龍泉即龍淵也。唐人避高祖諱、改称龍淵曰龍泉」の句を引く。

○撫 ……①なでる。したがえる

171 ○脱履…①草履を脱ぎ捨てる。事を軽視しまた惜しげもなく捨てる喩。

昭明太子の『陶靖節集序』に「唐堯四海之主、而有汾陽之心、子晋天下之儲、而有洛濱之志、輕之若脱履、視之若鴻毛」の用例が見える。

『漢語大詞典』には「比喻看得很輕。無所顧恋、猶如脱掉鞋子」と説明し、『漢書』「郊祀志上」の「嗟乎、誠得如黃帝、吾視去妻子如脱履、顔師古注、履、小履。脱履者、言其便易、無所顧也」の用